

会員増強は必要か？ 否か？

会員増強なくして、ロータリークラブの存続なし

旭川西 澤田 泰明

クラブ存続の必要条件は会員増強であり、ロータリアンにとって、「会員増強は必要か？否か？」というテーマには違和感さえ覚えます。

会員増強なくして、ロータリークラブの存続はあり得ません。日本の会員数の減少傾向は歯止めのかからぬ状況で、旭川西ロータリークラブ（RC）もまたご多分に漏れず、1970年代後半には120人の会員を擁する地区有数のクラブでしたが、所在地域の基盤変動ならびに会員の高齢化などにより、漸減傾向をたどることとなり、2009 - 10年度には会員数48人（平均年齢60.31歳）になってしまいま

した。

しかし、新年度は、わがクラブからガバナーが誕生し、諸行事をホストする立場となり、ロータリー歴の比較的浅い、若い年齢層の会員が、同世代の人材確保に励んだ結果、10人余の新会員を迎えることとなり、会員数59人（平均年齢56.69歳）で新年度をスタートしました。

ロータリーでは一時期、会員の量か質かを論点とした経緯を踏まえて、拡大策に転じたことが、ロータリーの基本理念から逸脱し、ロータリーそのものを変質させるきっかけになってしまったのではなからうかと残念に思っております。

増強と維持は、いずれのクラブも共有する課題です。単なる数合わせではなく、良質な会員候補者の発掘には、会員増強委員会だけでなく関連委員

会も、それぞれに機能し、持続することが、クラブ成熟の鍵ではないでしょうか。（第2500地区 北海道）

会員増強はライフワーク

佐世保東 前田 和隆

直接的には国内経済の縮小が一番の原因であろうと思われる会員減少問題ですが、世の中の多様化や少子化など、未来に向けてのマイナス要因が山積する現在、増強活動が必要か否かは論ずるまでもないことです。

もちろん、会員が多ければ多いほど良いというものではありませんが、現実問題として会員が30人を下回ってくると何かと問題が増えてくるのは間違いありません。経費に関する問題は、はやりの「エコ」を取り入れた運営で

何とかクリアできるものと思います。しかしロータリーの特色である「役割分担をした組織」を構成するには、どうしても必要な人数があると思います。当然若い世代が多ければ、活性化につながることは言うまでもないことでしょう。

われわれはロータリアンであり続ける以上、少々大げさに言えば会員増強をライフワークとして、日々の活動を続けていかなければならないと思います。（第2740地区 長崎県）

会員増強は奉仕活動の成果

札幌東 青木 功喜

ロータリーは、職業人としての個人奉仕から、会員の品格を育成したいという願望からスタートした。しかし、ポリオ撲滅運動が始められてから、団体奉仕とその奉仕の成果に比重が移動し、ロータリーの原点が見失われてきてはいないだろうか。

ガバナーは国際協議会（ガバナーエレクトの研修会）から帰ってくると、会員増強やロータリー財団への寄付を念仏のように唱える。しかし会員は減少し、13万人を超えていたわが国の会員は9万人を割ってしまい、大きなクラブは軒並みに100人を割っている。しかし、ロータリーにはなぜか切迫感を感じない。赤字が当たり前として自腹を切らず、金集めに一生懸命な会員がロータリーをリードし、多くの会員が無関心を装っている悪循環が繰り返されている。

会員増強は奉仕活動の結果であり、目的ではない。量か質かなどという次元の異なる議論にすり替える課題でもない。個人奉仕の結果が会員増加であ

る。成果にこだわって団体奉仕に専念するのではない。成果は奉仕した結果であり目的ではないのだ。マンネリ化した表彰を繰り返しても効果は上がらない。

増加する開発途上国における会員に押されて、根気のいる教育支援を行うより、手っ取り早い人道援助を行うことはロータリアンの本意なのだろうか。

ロータリーは成果重視の会員増強にこだわるべきであり、ロータリーは人間形成の場という原点を忘れたくない。（第2510地区 北海道）

会員一人ひとりが地道に入会者を探すべき

東京東村山 野澤 秀夫

クラブにとって何人が適正な人数か、という定義はありません。しかしクラブの健全な運営を保つためには適正な会員数が必要です。

ここ数年ロータリーの会員の減少は激しく、とりわけわが国の現状は極端で、地区によってはクラブの合併や解散という記事も見受けられる昨今、誠に寂しい限りです。

ロータリークラブは終身会員制であり、このことは会員の高齢化に伴い病气退会をする者や、亡くなる会員が少なくないことを意味します。それに追い打ちをかけて組織活動を敬遠する若者の増加もあります。

会員増強の方法は各クラブが工夫し、さまざまな手法を駆使していますが、成果はあまり上がっていないのが実情です。翻って今自分がロータリークラブの会員として活動できていることは、考えてみると、会員候補として

選ばれ、さらに2人以上の推薦者があったことによるものです。そのことに“おかげさまで”という気持ちがあれば、いつかはその恩に報いることです。自分の身の回りに推薦できる人は必ずやいるはずで

す。「会員増強は必要か？否か？」この問いは全くもってナンセンス、増強なくしてクラブ運営は成り立ちません。従って会員増強はどのクラブにとっても永遠の課題です。大きな打ち上げ花火を上げて一気に倍増するもくろみよりも、会員一人ひとりが地道に会員候補を探すことを責務として行動することが、会員増強の原点ではないでしょうか。（第2580地区 東京都）